３年後の東京へ！（松島りつこ）

恩恵が届かず苦しい環境と、人の心と心が通わず疎外感から、自らで人生を終わらせてしまう方が後をたたない事を知りました。そういう方がいる限り豊かな日本とは言えないでしょう。

そんな思いを持っている方々にメッセージを送ります。私は親である神の存在を信じています。一度、神がつかさどる自然界に思いをはせてほしいです。

1日の中で夜明け前が一番暗いと言います。寒い冬の次には暖かい春が必ず来ます。青く美しい空も雲がてほしい。雨ならば少し忍耐してやむのを待ってほしい。助けを求めてほしい。1人が駄目でも諦めないで2人、3人に。人は誰でも誰かのために役に立ちたいという心を持ち合わせて生きているのだから。

（豊見城市、主婦）

うそっぱち

宮古島に射撃訓練場
見たくないな～
―サシバ
（北海道・あのね）

続ける

教育課、琉球新報沖縄の3社がこのことが始まりだ。願の祖国復帰の人連合会から沖縄会に改称し、復帰物価の特別措置

嘱認後の差損補償動などを実施し主張大会は第5回県婦連が引き継ぐに。

問題を取り上げ主で、婦人の社会的視野を広め、連携を密にし、地域社会の発展に寄与したいと、大会の趣旨を社会的な繋がりや課題に広げた。この趣旨は生かされただろうか。

激動する沖縄で婦人たちは、家のこと、地域のこと、社会への問題提起などさまざまな事象に鋭い感性で、自分のことばで主張した。素朴で率直で飾らない。しかし、訴えは迫力に満ちていた。

しかも主張をして終わりではない。教育委員、民生委員、学校サポーターなどその後多くの場で、会員らは貢献している。主張したテーマについては行政に要請したり県民運動に発展させたり、地域の繁栄に繋げるよう努力してきた。各地域の婦人学級の学習資料にも役立ててきた。半世紀にわたる、亡き先輩方、全ての現会員のこうした努力の継続を私は誇りに思う。

大会は発表者にとって自己啓発の場であり、視聴者には勇気を与え感動を与え示唆を与える。激動する沖縄に貢献する、地域リーダーの人材を育成したい。今年も19日（火）午後1時30分から沖縄市民会館で開催する。どんな提起、提言が生まれるのか、注目していただきたい。

（一般社団法人沖縄県婦人連合会会長、77歳）

琉球新報　2017年９月12日

南風

一日一生

東恩納　厚
東恩納組　代表取締役会長

立秋も過ぎ、暦の上ではすっかり秋である。暑さ寒さも彼岸までというが、日の光は強く肌を刺す。

四季がある地では、盛夏に青い稲穂は、10日もすれば黄金色に輝き大きく揺蕩（たゆた）う。冷たい風にあまたの枯れ葉は舞い落ち、赤くなった柿の実が細い枝を彩る。茜に染まった遠くの空は、透き通った山の連なりを覆い、そして暮れて行く。

9月になると、季節の移ろいを恋しく思う。

医師になり、多くの患者さんの最期を看取った。

懸命に働きやっとのことで店を持ち、人生これからという時に、突然の病になり亡くなった人。僅（わず）か17歳の若さで発病し、治療の甲斐なく逝った人。

人生は不条理で、人間は不平等である。神が我々に与えた平等は、死のみである。それゆえ、一日一生の思いで、今のこの時を生き切る。

然（さ）りとて、つひに行く道は見えない。明日をも知れぬ我成すことは、愛する父の名を残すことである。

父は、先の大戦で家族を失った。13歳だった。敗色濃くなり、祖父は、祖母と子供達を手に掛け自らも命を絶った。

集団自決である。

末っ子の父に加減したのか、前頸部（けいぶ）の鎌痕は急所を外していた。戦後は、激動期を生き抜き26歳で創業した。家族をとても大切にし、有り丈の愛情を注いでくれた。そして、立派な経営者であった。

この拙文を私の患者さんが読んでいるのならば、改めてお詫びする。医師を辞めて、すみませんでした。我が心情を察し、ご理解を願いたい。

道は違えど、人に尽くすことに変わりなく、善き企業へと育て、次なる者へと引き継ぐことは、私の天命である。

つひに行く
道とはかねて聞きしかど
昨日今日とは
思はざりしを
業平

投稿規定　声・ネットワーク400字、論壇1000字、ティータイム600字。住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記。〒900―8525　那覇市天久905。原稿は琉球新報社オピニオン係に郵送。ファクス098(865)5234、メールkoe@ryukyushimpo.co.jp　問い合わせは同係☎098(865)5175。他紙との二重投稿は厳禁。掲載の可否についての問い合わせには応じかねます。「うそっぱち」は社会部ファクス098(865)5222。